

第1・2回審議会での意見等の整理・分類

【委】 = 審議会での委員の発言を基にした意見
 【学】 = 審議会での学識経験者の発表を基にした意見
 【レ】 = 第三期の進捗状況報告を基にした意見
 【(子・教・保)ア】 = 武蔵野市子どもの学習・生活に関する調査結果を基にした意見
 ※分類名や番号順は便宜上付与したもの

⑩今後の特別支援教育のあり方

特別支援教育で一番有効なのは教室環境、ルール、雰囲気整備(間接的支援)【学】

特別支援教育の推進(ユニバーサルデザイン、特別支援教室の充実)【教ア】

【議論の少ない分野】
 ア 体験活動の充実
 イ 多様な価値観や生かした学び
 ウ 特別支援教育
 エ 生活習慣や運動習慣の醸成、食育推進
 オ 教員の働き方改革
 カ その他(各委員が感じている課題等)

④個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

細かいことを覚えるだけでなく、活用の効く知識が大切【学】	子どもは有能な学び手で、環境を整えれば学ぶ【学】	子どもの気付きからの課題追究が大切【委】
協働的な学びでは、教員も一緒に探究する【学】	個別最適な学びの充実は教員に求められるものが大きい【委】	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実【子・教ア】
学習の基盤となる資質・能力の育成(言語能力、情報活用能力)【保教ア】		多様な本との出会いや読書に親しむ機会の確保【レ】

必要な知識に直接アクセスする(知識データベースエキスパートシステム)【学】

②子どもの居場所づくり

不登校の子が一人で悩む状況をどうにかしたい【委】	アンケート結果から不登校支援のニーズが高いのでは【委・ア】	別室登校、教室以外の居場所づくりは効果的【委】
不登校のきっかけ「先生、身体不調、生活リズム、勉強等」【学】	サロン型支援だけでなく、アウトリーチ型支援も大切【学】	家庭と子どもの支援員(常駐型)増、保護者支援【レ】
特定の領域に才能をもつ子の支援も今後大切だ【委】	ICT活用、フリースクール連携、特例校の研究など【レ】	日本語指導の支援充実【レ】

不登校支援は教育、心理、福祉、医療の連携が大事【学】

地域で学習等の支援をする場所があるとよい【委】

③ICTの創造的活用

ICTは今後有益に活用する必要がある【委】	子どものアンケートでICT顕著。できることもっとあるのでは【委】	動画や映像作り、プログラミング【子ア】
学習者用PC等を使った興味があること調べ【子ア】	デジタル・シティズンシップ教育推進(創造的な学習者用PC活用等)【教ア】	情報活用能力育成、デジタルシティズンシップ教育【レ】

不登校への学習者用PCの活用進んでいるが先生が大変だ【委】

不登校の子もネット上で交友関係をつくっている場合がある。【委】

ネット上の交友だけだと正しい情報が伝わっているか心配【委】

⑤体験活動の充実(文化・スポーツ・自然)

外国語教育の充実(留学生との交流、英語指導力の向上)【保子ア】	プロの音楽家の演奏を聞く、美術作品を見る【子ア】	スポーツ選手と一緒に体を動かす、話を聞く【子ア】
たくさんの自然を見る、ふれる【子ア】	セカンドスクール等の体験学習は子どもが大きく変わる【委】	長期宿泊体験学習の効果検証【レ】

①学校運営のあり方(教育課程の編成・働き方改革等)

社会構造が大きく変わる中で教育だけ変わらないのは不可能【委】	自分で考え判断・行動できる子の育成には学校が変わる必要【学】	育成する資質・能力の明確化が大切。調査、地域、社会動向の把握【学】
学校評価を通して教育活動を見直し、改善するスパイラル【学】	授業の1、2割が変われば学校は変わる。特に総合的な学習等【委】	働き方改革の推進(人員確保、業務改善、部活動)【教保ア】
教員の専門性の向上(研修会への参加費補助等)【教ア】	ICT化、部活動の在り方、若手や学校の中核教員の育成推進【レ】	直接人と出会い、話すことができるのが学校のよさ【委】

色々な学年や学級の子と学ぶ、遊ぶなどの交流【子ア】

⑨学校・家庭・地域等の連携

学習指導要領の理念...社会に開かれた教育課程の実現【学】	PTAや保護者も教育の一端を担えないか(キャリア学習の話等)【委】	学校は教育目標をどう設定しているのか【委】
地域や関係機関と連携した教育の推進【教ア】	地域が関わることで第三者から褒められ、自尊心が高まる【委】	開かれの機能充実、文化生涯学習事業団連携、就学援助制度周知等【レ】
地域活動の中で、地域に関わる子が少ないと感じる【委】	地域の取組が子どもの居場所になることを学校も理解してほしい【委】	次代の教育を担う人材の確保(大学連携等)【教ア】

学校が教育課程を工夫しても、保護者や地域に伝わっていない【委】

⑥多様な価値観や意見を生かした学びの充実

価値判断、創造、意思決定、協働等は人間にしかできない【学】	納得解や最適解を求め続ける子どもの育成が必要【学】	多様性を生かした学び(学級活動・生徒会等)【教ア】
-------------------------------	---------------------------	---------------------------

⑧市民性・社会参画意識の育成

市民性や社会参画意識の向上は本計画で大事になってくる【委】	武蔵野市民科で様々な人と関わる中で社会参画意識が高まる【委】	武蔵野市民科でこんなこともできるという体験が世界に目を開く【委】	中学生は防災教育で自分に何ができると真剣に考える【委】
社会参画意識向上はSDGsからのアプローチが効果的【委】	市民性の育成、社会参画を意図した取組の一層の推進【レ】	社会の現実、リアルを身近に感じることで当事者意識が高まる【委】	自分が参画して社会が幸せになるという価値を学校は教えるべき【学】

⑦子どもの意見表明・参加

全ての子どもは幸せになる権利をもつという認識が必要【委】	生徒指導充実(子どもが主体的に考え行動する力の育成等)【保・教ア】	子どもの権利を学ぶ機会づくり、意見表明や参加の実現【レ】	忖度や、空気を読む子になっていないか【学】
おかしいと思うルールがある子2割、保護者4割、教員4割【ア】	ルールに不満がないのは自分で変えることを諦めている?【委】	子どもが教室の課題について自分事化しているか【委】	対面非同期が今後の授業のイメージの一つになる【学】

【本日議論いただきたい内容】

これまでの議論や①～⑩及びア～カの内容を参考に、武蔵野市の学校教育を通してどのような子どもに育ててほしいか(第四期武蔵野市学校教育計画の基本理念)